

二〇二五年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程（午前）

国語（六〇分 一〇〇点）

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題冊子のすべてのページがそろって
いることを確認して始めなさい。
 - 二 問題冊子は1ページから22ページまであります。
 - 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に記入しなさい。
 - 三 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
 - 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
- 解答用紙は、問題冊子の上に開いたまま裏返して置きなさい。
（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑧の――線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 雨の降る兆候が見られる。
- ② 入場行進の旗手をつとめる。
- ③ 勝利の知らせを聞いて有頂天になった。
- ④ 心に刻まれた思い出。
- ⑤ フェリーにじょうせんした。
- ⑥ 荷物をあずけることができますか。
- ⑦ 見事合格というろうほうが届いた。
- ⑧ 道路ひようしきに沿って通行する。

問二 次の①～⑤の（ ）に当てはまる漢字一字を答えなさい。

- ① 根も（ ）もないうわさを信じてはいけませんよ。
- ② こんなところで（ ）を売っていないで、早く仕事にもどりましょう。
- ③ うわの（ ）で聞いていたので、よく覚えていない。
- ④ さわぎが（ ）をかけて大きくなった。
- ⑤ 店員さんが、立て板に（ ）のように説明を始めた。

問三 次の①～⑤の()に当てはまる接続詞を後のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 駅までは自転車でいきますか。() 歩いていきますか。
- ② 台風が近づいてきた。()、楽しみにしていた運動会は中止になってしまった。
- ③ 彼女はピアノも歌もうまい。() 絵も上手で、芸術の才能が豊かである。
- ④ 確かにあなたの言うことはもつともです。()、今回の計画を変更することはできません。
- ⑤ 昨日の小テストは大変よくがんばっていたね。()、今日も始めようか。

ア	しかし	イ	それとも	ウ	さて
エ	なぜなら	オ	しかも	カ	だから

問四 信子さんと愛子さんは、小学校の「こども祭り」の後で、参加者に書いてもらったアンケートをもとに来年の内容について話し合いをしています。

(1)

(2)

に当てはまる内容を考えて答えなさい。

信子：アンケートでは「満足だった」と答えた人が八割もいて、今年のこども祭りはかなり好評でした。

愛子：よかったです。でも、残り二割の人は、「どちらとも言えない」か、「つまらなかった」と答えているんですね。

信子：それは残念ですね。来年は、全員に満足してもらえるように、内容を少し見直したいと思います。

愛子：「お店」の内容に似たようなものが多いと書いている人がいますね。

信子：はい。それぞれのクラスで決めてもらった出し物のままだから、内容が重なってしまっていたのもありました。来年

は、希望の出し物が重なってしまった場合は (1) ようにしましょう。

愛子：参加者アンケートでは、楽しかった理由の上位三つは、① 友達や家族と楽しく過ごせたから、② 自分や家族がお店

を出したから、③ 自分や家族がステージ発表に参加したから、という結果になっています。

信子：自分や家族が実際に企画に参加していたという人の満足度が高いようですね。

愛子：確かに、つまらなかったと答えた人の理由に、「発表を見てばかりだった」というのがありますね。

信子：家族に小学生がいないと、知らない人がやっているお祭りになってしまう。地域のお客さんにとっては、つまらない

かもしれません。来年は、ステージでクイズ大会などの企画をして (2) ようにしましょう。

愛子：そうですね。みんなで簡単なダンスを踊るコーナーや、ビンゴ大会なんかもいいかもしれません。

信子：来年も、ますます楽しいこども祭りができるといいですね。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 都市化という環境変化によって増える種もあれば、数を減らす種もあります。

例えば、都市のクマネズミは、スーパーラットと呼ばれ、ワナにかかりにくく、毒エサも効かないものが増えています。都市環境に適応したネズミです。このような都市化型害獣はこれからも次々と現れてくるでしょう。

都市化型害虫の最たるものは、ゴキブリです。クロゴキブリやチャバネゴキブリといった南方産の外来ゴキブリたちにとって都市環境はきわめて楽です。今や北海道にまで住み着くほど、人間が彼らの住みやすい環境を与えています。一方で日本産のヤマトゴキブリはかつては山里の古い日本家屋に出入りしていましたが、都市化の波にはついていけず、今では雑木林の中でひっそりと生きています。

人里では適応してきた動物が都市化の波で減った例にはスズメがいます。もともとはアジアの平原で進化してきた鳥です。稲作文化が日本に導入されたことに伴って、後を追ってスズメも弥生時代くらいには日本に入ってきたとされています。スズメは人間が里山を作り、稲を作る環境、つまり人の営みがある空間に適応した動物だったのです。巢の材料になる茅葺きの家もなくなり、田も減少することで従来の生活環境が失われてしまい、スズメもその数が減ってしまったと言われています。

環境変化によって昆虫も減少しています。例えば、日本人に身近なクワガタムシでは、ミヤマクワガタが心配です。ミヤマとは深い山と書き、朝もやの立つような山の中の原生林でしか生きていけません。でも、現在日本の山林は道路建設によって分断化が激しく林内の乾燥が進行しているのではないかと想像されます。もともと山奥でしかその姿を拝めなかったミヤマクワガタは、今ではいっそう貴重な種となっています。そのうえ飼育が難しく、将来、日本からその生きている姿が消えてしまうのではないかと心配されています。同じくオオクワガタは薪炭林に大きく依存している代表的な種のため、薪や炭を使わなくなった現在は、薪炭林の劣化が進んだことで、大変希少価値を持つ種となっており、さらなる急速な劣化によっていっそうその減少が心配されています。

ます。しかし、この種については今では飼育技術が確立されており、日本中の熱心な愛好家たちによって大切に飼育され、将来もその遺伝子が保存されていく可能性は高いと考えられます。

これから私たち人間はどのように環境と向き合っていけばいいのでしょうか？

人間は脆弱な動物であり、お互いに助け合い、コミュニティを作り、自然環境に立ち向かい、自然を改変することで生き延びることができた生物集団です。自然の改変をやめて自然の流れに身を任せる野生生物のような生き方をすれば、ほかの生物たちに何の悪影響も与えずに済むでしょうが、そんな生き方をすれば人間はあつという間に自然と野生生物の攻撃を受けて、簡単に淘汰されてしまうことでしょう。開発なくして人間の生活は成立しえないとしても、開発のやり方ひとつで自然環境や野生生物との共生は可能ではありません。

例えば、^③日本の建築物は古くから木造が主流となっていますが、この建築様式こそが日本の環境にはベストマッチングだったと思われま。雨が多く、湿度も高く、さらには地震も多いわが国において、木造建築は腐りやすく、また揺れにも弱いイメージですが、実際には湿度にも地震の揺れにも強い建築様式とされています。日本各地に建てられた木造の神社・仏閣が数百年を経ても残存している事実がそのことを物語っています。

木造建築が湿度に強い理由は木材そのものの調湿効果にあります。つまり、湿度を吸収しては吐き出すという調整機能が木材に備わっているのです。もちろん湿度が高すぎて、木材の調湿機能を超えれば、木材は湿度に負けて腐食を始めます。だから、古い日本の木造建造物は床下換気や、建物全体に空気の通り道を作るなど、湿度の高まりを抑える工夫もなされているのです。

さらに地震の揺れに対しても木造建築は剛性があります。まず、木造は鉄筋やコンクリート建造物に比して軽いため、地面からの振動エネルギーによる揺れが小さくてすみます。また木材は弾性にも優れ、同じ重さでの材料の強度を比較すると、圧縮に対する強さは鉄の約二倍、コンクリートの約九・五倍、引っ張りに対する強さは鉄の約四倍、コンクリートの二二五倍もあるとされます。鉄やコンクリートは、形を維持する剛性に優れていても、限界以上の曲げの力が加わると突然崩壊しますが、木材は曲げの力

に対して弾性があり、また同じ状態に復元する力があります。地震などの大きな力を受けたときも、ある程度変形しながらそのエネルギーを逃すという性能があるのです。もちろん、その強度以上の嵐や地震が来れば、木造住宅といえどもあつけなく崩壊します。しかし、欧米の石造りや現代の鉄筋コンクリートよりも重量が軽いので、倒壊した建造物の撤去や焼却が相対的に容易であり、木材さえあれば、また再建築が可能となります。このように、湿気が多く、地震や台風などの気象災害が多い日本の環境にもっとも適応した建築様式として木造建築が進化してきたと考えられます。

焼却できる、といえば木造の最大の弱点は火災です。江戸の街も何度となく火災に見舞われ、そのつど大きな被害が出たとされますが、木造であるがゆえに延焼を防ぐための倒壊も容易であり、また廃墟の撤去、再建もやはりスムーズに行えたと考えられます。なによりも素材が木という有機物であることは、自然界・生態系において分解と物質循環というサイクルシステムに組み込むことが可能な究極のリサイクル用品であったともいえます。

里山という生活様式、木造という住宅様式など、かつての日本社会は持続可能なシステムの中で発展してきました。しかしながら日本は現代に入って、生活様式も住宅様式も再生産性や持続性が極めて低下し、すっかり資源消費社会となってしまいました。産業の中心が商工業へと移ったため、生産効率と消費効率の高い都市へと人口が集中するようになり、地方からは若者の流出が続くなど地方の過疎化が進みました。日本のいたるところでこのようなことが起こってしまったのです。その結果、^④ 手を入れるべき自然が放置されるようになりました。山林や耕作放棄地は荒れ果て、生物多様性は劣化し、シカやイノシシばかりが異常に増える温床となっています。一方、都市では水や大気が汚染され、大量のエネルギー消費が温暖化を進行させています。

人間がいなくなった方が自然は豊かであり、生物多様性も高くなるのではないか？ そう思われる方もいると思います。たしかに人間がいなければ自然のままの生物多様性がそこに維持されますが、そこでは人間社会を維持することは難しくなります。

人間社会と生物多様性の関わりの中では必ずしも開発⇨悪とはなりません。日本の場合、本来の手つかずの自然環境は、ブナやタブノキなどの陰樹に覆われ、暗い森になってしまい脆弱な人間が生活の場とするには、厳しい自然環境となります。

生物多様性との共生で目指すものは手つかずの自然ではなく、人間が生きていける空間作りです。日本人は、古くから森を利用してきました。やがて森を加工し、水田や畑などの農耕地や居住のための開放空間を確保するようになり、その周りに自らの手で森を作り、奥山（自然林）、雑木林、里地という異なる生態系がつながりを持つ^⑤里山を作り上げ、さまざまな動植物の生息空間を提供しました。人間自身はそれらの動植物が生産する資源や生態系機能を享受して生活を維持してきたのです。

例えば、古くは縄文時代から、日本人たちは森でドングリを食料として採取し、木を伐採して薪とし、一部では栽培種のクリやウルシを植えて利用していたと考えられています。里山が発達してくると、雑木林に生えているアカマツは、建材に利用されるほか、枝は燃料に、さらにその灰は田畑の肥料に利用されていました。クヌギやナラなどの落葉樹も、薪や木炭に利用して、落ち葉はかき集めて堆肥にしました。雑木林で採られる木の実やキノコ、山菜、野草は、季節の旬を味わう食料にもなりました。そして奥山からたまに里山へと降りてくるシカやイノシシ、クマなどは、貴重なタンパク源として利用されていたのです。

このように、日本人は自然に手を加え、それを持続的に管理することで、自然との共生社会を完成させた結果、実に縄文の時代から一万年もの間、この狭い島国の中だけで完結して生きてきたとされています。

そんな^⑥自然共生社会としての里山が、今では都市開発の裏側で放置・放棄され、劣化が進んでいます。人間の管理の手を離れた耕作地は、元の生態系に還元されるのではなく、外来種の雑草が入り込んで繁殖し、また、雑木林も長期間放置された結果、樹高の高い巨木が占拠し、林床には耐陰性の常緑樹種やササ類が茂っています。このような状態ではカタクリなどの林床植物や草花に訪れる昆虫類、そのほかの小動物が生息できず、生物多様性は劣化することになります。さらに、人間が住む里地と野生生物が住む奥山の間に位置する里山が放置されることで、シカやイノシシなどが平野部にまで進出してくる機会が増加し、農業被害や人間を襲うなどの被害が続出するようになりました。このまま里山の過疎化と放棄が進めば、人間社会が野生動物の襲来に圧迫されるのではないかと心配されています。

問一 ―― 線部①「都市化という環境変化によって増える種もあれば、数を減らす種もあります」とありますが、都市化によって数を増やしたものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア クマネズミ イ 外来ゴキブリ ウ ヤマトゴキブリ エ スズメ

問二 ―― 線部②「クワガタムシ」とありますが、「ミヤマクワガタ」と「オオクワガタ」について、次のようにまとめました。
() に当てはまる言葉を、本文中の言葉を使って答えなさい。

どちらも環境変化によって数が減少しているという現状は同じだが、「オオクワガタ」は () ために、
将来的には「ミヤマクワガタ」のような絶滅の危機にはない。

問三 ―― 線部③「日本の建築物は古くから木造が主流となっています」とありますが、日本の木造建築について説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 腐食しない特殊な木を使っている日本の木造建築は、湿度が高い日本の環境に合っている。
イ 突然崩壊してしまふ危険性がある日本の木造建築は、欧米の石造りの建築よりも劣っている。
ウ 重量が軽いうえに弾性にも優れている日本の木造建築は、コンクリートよりも地震には強い。
エ 火災に弱い日本の木造建築には、被害を防ぐために調湿機能の高い木を使うという工夫がある。
オ 素材が有機物である日本の木造建築は、台風による災害が多い日本の環境には不向きである。

問四 ——— 線部④「手を入れるべき自然が放置されるようになりました」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って、四十字以内で説明しなさい。

問五 ——— 線部⑤「里山」とありますが、現在の里山の様子について説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現在の里山は放置されているところが増え、都会の人間が移住するには厳しい場所になっている。
イ 現在の里山では野生動物が増加し、人間が住むことができる土地はいちじるしく減少している。
ウ 現在の里山は本来の自然を取り戻しつつあり、多様な動植物の生息地としての広がりが見られる。
エ 現在の里山では放棄された土地が再開発され、水や大気が汚染されるなど環境が破壊されている。
オ 現在の里山では人間の管理の手を離れた耕作地が荒れ果て、生物多様性の劣化が進んでいる。

問六 ―― 線部⑥ 「自然共生社会」とありますが、これと反対の内容を表す言葉を、本文中から六字でぬき出して答えなさい。

問七 〰〰〰線部 「これから私たち人間はどのように環境と向き合っていけばいいのでしょうか？」とありますが、これに対して筆者はどのように主張していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア これからの人間は自然環境をけつして壊すべきではなく、自然のありのままの姿を残すように努力するべきだ。
- イ 都市化によりたくさんの生物が絶滅の危機にあることから、これからの人間は生物多様性を第一に考えるべきだ。
- ウ 地方の過疎化が進んでいる事実をふまえると、これからの人間は積極的に地方に移住することを考えるべきだ。
- エ 自然の改変なくして人間の生活は成立しないが、自然環境や野生生物と共生可能なものとしていくべきである。
- オ 地球の環境変化の主な原因は地球温暖化であるので、二酸化炭素を吸収する森の木はこれ以上切るべきではない。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

——頭が、痛い。

こめかみをぎゅうつと誰かに押さえつけられているような痛みが朝から取れない。そのせいで食欲がなく、目の前にあるお弁当に箸がつけられないでいた。

「大丈夫？ 保健室で痛み止めの薬をもらってきたら？」

眉間にシワを寄せてお箸を持ったたり置いたりを繰り返している私に、和ちゃんが言った。

「そう、しようかな」

これまではこんなふうに頭が痛くなることなんてなかったのに、ここ最近頻りに頭痛に襲われる。今日はとくにひどい。低気圧だとしんどくなる。前に美緒ちゃんが言っていたつけ。まあ、今日は雲ひとつない青空が広がっているから、関係ないのだけだ。

頭痛の原因はおそらく寝不足だ。

最近寝つきが悪い上に、熟睡できずに夜中に何度も目が覚める。

寝る前に文乃ちゃんのことを考えているからだろうか。

はじめは小さなシミのようなものだったのに、それはいつの間にかどんどん私の体の中を黒色に塗りつぶしていく。体が、頭が、重い。

ふうーつと息を吐き出して立ち上がる。

「ひとりで大丈夫？」

「①うん、ありがとう」

付き添^そってくれようとした美緒ちゃん言葉を断り、ゆっくりドアに向かって歩く。

頭が痛いのは困ったけれど、昼休み中、みんなと話をしないで済むのはありがたい。体調が悪ければ無言でもいいし、愛想^{あいそ}笑^{わら}いもしなくていいのは、楽だ。

——ひとりで過ごしていたときのよう。

そんなことを考えてしまう自分がいやだ。心配をしてくれた美緒ちゃんたちの気持ちを踏^ふみにじっているような気がして、
ろめたい。 a 後

とにかく、今日の昼休みは保健室で時間をつぶそう、と教室のドアに手をかけた。そのとき、

「え！ 文乃、今日の小テスト0点だったの？」

かえちゃんの大きな声が教室に響^{ひび}いた。

教室内がざわめく。

「小テストって、今日の国語のやつ？ マジで？」

「めっちゃ簡単だったよな」

クラスの男子も文乃ちゃんに聞こえるような音量で話しはじめる。

「ち、ちよつとかえちゃん、見ないでよ！」

振り返ると、かえちゃんの手に使っていた答案用紙を文乃ちゃんが必死になって取り返そうとしていた。

「b かたくなに点数を言わないからどうしたのかと思っただら、そういうことかあ」

「隠^かしたいならちゃんと落とさないようにしないとダメだよねえ」

美緒ちゃんがあきれたように言って、かえちゃんは文乃ちゃんの手をかわして答案用紙を見つめている。

「でも0点って。逆にすごくない？」

「回答欄を間違えちゃったんだよねえ。もう、恥ずかしいからやめてー」

「えー、本当にー？」

「本当だって。ね、もういいでしょー、やめようよー」

かえちゃんは楽しげに笑っていた。文乃ちゃんも笑みを浮かべている、けれど。

その様子を見た男子が「すげえな」「マンガみたいなミスしてんじゃん」とゲラゲラ笑う。他の女子たちは会話にまざることはないものの、あざわらうような表情を浮かべて文乃ちゃんを見ていた。

なんでかえちゃんは、みんなに聞こえるように文乃ちゃんの点数を言ったんだろう。文乃ちゃんが隠していたのは、誰にも知られたくなかったからだ。友だちなら、いや、友だちでなくなつて想像がつくことなのに。

バカにするためにわざとやったとしか、思えない。

体がざわりと震える。

「めつたにこんなのないから、自慢できるよ文乃」

「あはは、そうかなあ。自慢になるかなあ」

文乃ちゃんが自虐的に声をあげた。自らの意思でみんなの注意をひくかのように言うと、まわりはさつきよりも騒がしくなる。

「ほんと文乃はどんくさいっていうか抜けてるっていうか」

「まあ、たしかに今どきそんなことで0点取るなんてすごいよ」

「美緒ちゃんにすごいって言われることは褒められてるの？」

「そんなわけないでしょー、文乃、調子のりすぎ」

自ら笑い話にしている文乃ちゃんの表情は、一見楽しそうに見える。けれど、顔は真っ赤で、頬がひきつっている。

それは、^② どう見ても無理をしている表情だ。

やっぱり、いや、絶対にこれっておかしい。そう思うと頭痛がますますひどくなる。どくんどくと、こめかみが脈打っている感じがする。痛い、重い、揺れる。振動で、鼓動もはやくなる。

③ ドアに手をかけたまま、廊下に足を踏み出すことができず、教室の様子を眺める。

教室に入ろうとした誰かが正面にやってきた気配がした。顔はずっと教室の中に向けられているので、誰かはわからない。はやくどいてあげないといけないのに、動けない。

「なあなあ、その答案用紙おれにも見せてよ、写真撮りたい！」とひとりの男子が文乃ちゃんに近づいた。

「え、や、やだよ」と文乃ちゃんは当然断り、かえちゃんが「いいじゃん減るものじゃないし」と文乃ちゃんの肩に手をのせる。

「でも、字も、汚いし恥ずかしいよー」

明るく拒否する文乃ちゃんに、今度は「たしかに文乃の字はクセがすごいよね」と美緒ちゃんが言った。「クセって言うか、雑だよね！」きゃはは、とかえちゃんが笑ったからか、男子たちは余計に興味をそそられたらしく「見てえ」と文乃ちゃんに詰め寄る。

「文乃の字、ほんと、たまに読めないの、雑で」

「この前テストでも『解説不可』って先生に赤字入れられてたよね」

「ふはは、やべえなそれ」

「次の中間までに字の勉強しないとね」

会話がどんどん進んでいく。

今までの失敗をひとつひとつネタにして、そこから別の失敗をあざける。

仕方ないなあと文乃ちゃんは気持ちを切り替えるためか食事を再開しようとした。けれどタイミングが悪く、文乃ちゃんはその場でお箸を逆さに持ち、指摘されたことでそれを落とす。

教室が高笑いに包まれる。

文乃ちゃんは徐々に言葉数を減らし、ただ、笑っているだけになっていた。

④ 笑顔のあふれる教室が、気持ちが悪い。

「なんで、笑ってるの」

気がついたら、口が動いていた。

その一瞬で、教室の空気が一掃されたかのように静かになった。

私の声はけっして大きくなかったはずなのに、隅々まで聞こえてしまったのか、クラスメイトの視線が私に集中する。

「どうしたの、凜子」

⑤ と片眉を上げてかえちゃんが噴き出す。けれど、その言葉にはどこかトゲが含まれているように感じた。

鋭い視線からとっさに目をそらす。

「あ、いや……」

独り言のつもりだった。

思ってもみなかったクラス中の反応に、たじろぎつつ、ぐっと足を踏ん張る。すると、今度は眉間のあたりが痛んだ。

ああ、頭が痛い。イライラする。

でも、このいらだちは頭痛によるものだけではない。

「そんなに、からかわなくてもいいんじゃないかな、って」

拳を作り、かえちゃんに言葉を返す。かえちゃんは目をくりっと大きく見開いてから「大丈夫だし」と言って文乃ちゃんのほうを見た。

うを見た。

「ちよつといじってるだけじゃん。ねえ、文乃」

「あ、うん、はは」

なにが大丈夫なのか。

安易に頷く文乃ちゃんにもイライラする。

なんで笑っているのかさっぱりわからない。さっきまで、明らかにつらそうな、居心地の悪そうな顔をしていたじゃない。ふたりの仲が悪いわけじゃないのは知っている。

私だって、文乃ちゃんのこと、かえちゃんのこと、きらいなわけじゃない。

でも本当に、さっきの会話は、空気は、間違っていないのだろうか。

なにもおかしいことじゃないと、みんなは思っているのだろうか。

私だけが気にしているのだろうか。

「凜子、ちょっと気にしすぎなんじゃない？ ノリ悪いよお」

かえちゃんが、つぶやいた。

私に聞かせるつもりはなかったんだろうと思うくらい小さな声だったけれど、それでも、しっかりと私の耳に届く。

⑥ ぐつと唇に歯を立てて、体ごとかえちゃんのほうに向けた。

「でも——」

「おいおい、いじりの回数は三回までって言っただろー」

私の後ろから明るい声が聞こえてきて、一気に視線がそちらに集まる。

「……和久井くん」

振り仰ぐと、和久井くんと、阪城くんと多久くんが立っていた。いつから私の背後にいたのか。と思ったところでそういえば誰

かが近づいてきた気配を感じていたことを思い出す。

彼は名前を口にした私をちらっと見てから、誰にもバレないように背中にそっと触れてきた。

A、とでも言うように。

「いじりが長い長い、お前からまだまだ未熟者だわ。そんなんじや不合格って感じ？」

「ぶはは、なんだそれ。なんの試験だよ」

和久井くんは、さっき文乃ちゃん的答案用紙を取り上げようとしていた男子に「そんなんだからだめなんだよ」とにやりと笑いながら指差して、自分の席に向かっていく。いつも和久井くんという男子ふたりも「センスがねえよな」と同じようにクラスメイトにダメ出ししていた。

けれど、けっして場の空気を重くさせるような、真剣な口調ではなかった。

冗談と本気の、ちょうど B、という感じだ。

だからなのか、誰ももう、文乃ちゃんを笑うひとはいなかった。

そして、和久井くんは文乃ちゃんの答案用紙を見て、

「オレの字の方が汚ねえな。オレに敵うわけないっつーの。なあ？」

と阪城くんたちに同意を求める。

「なんのマウントだよ。自慢になんねえだろ」

「なんでも一番は誇れるんだよ」

大声でじゃれ合う和久井くんたちに、かえちゃんも美緒ちゃんも「くだらないことでケンカしてー」と表情をやわらげる。

⑦ 教室の空気は、一気に和久井くんのものになった。

和久井くんの笑顔に、頭痛が少しだけ引いた気がした。

(櫻) いいよ『世界は「」で沈んでいく』より

問一 〜〜〜〜線部 a 「後ろめたい」、b 「かたくなに」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- a 「後ろめたい」
- ア 腹立たしい
 - イ わくわくする
 - ウ 油断できない
 - エ 気がとがめる
 - オ くやしい
- b 「かたくなに」
- ア 頑固がんに
 - イ 少しも
 - ウ 絶対に
 - エ 真面目に
 - オ 怖こわい様子で

問二 〃線部① 「うん、ありがとうございます」とありますが、ここでの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 頭痛を治すために、少しでも早く教室を離はなれて保健室に行きたいと思っている。
- イ 寝不足のせいで頭が痛いことは分かっているので、少し保健室で寝たいと思っている。
- ウ 美緒みおちゃんが体調を気遣づかってくれるのはうれしいが、今は一人になりたいと思っている。
- エ 本当は付き添そってほしいが、昼休みの時間がなくなるから美緒ちゃんに悪いと思っている。
- オ 美緒ちゃんとは最近仲が良くないから、保健室まで二人で行くのは気まずいと思っている。

問三 ——— 線部② 「どう見ても無理をしている表情だ」とありますが、ここでの「文乃」の様子を説明したものとして最も適当

なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 0点をとったことを失敗談とすることで、クラスメイトからの注目を集めようとしている。
- イ 楽しそうにふるまうことで、自分の本心をクラスメイトにさとられないようにしている。
- ウ 自分をだまそうとする美緒に対して、腹立たしく思う気持ちを必死で押し殺そうとしている。
- エ 0点をとってしまったことを忘れて、次のテストに向けて気持ちを切りかえようとしている。
- オ クラスメイトから同情されていることが苦しく、この場の雰囲気（かみ）をなごませようとしている。

問四 ——— 線部③ 「ドアに手をかけたまま、廊下に足を踏み出すことができず、教室の様子を眺める」とありますが、ここでの

「私」の様子を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 教室で起こっていることに体調が悪化するほどの強い違和感（い）を覚え、教室から離れられなくなっている。
- イ クラスメイトにからかわれている文乃（おこ）がいつ怒りだすだろうかとはらはらしながら様子を見ている。
- ウ 先生のところ（い）に告げ口をしにいくと思われると嫌なので、教室から出ることができなくなってしまう。
- エ 頭痛がどんどんひどくなってきて保健室に一人で行けそうになくて、誰かに助けを求めようとしている。
- オ ドア（い）の向こうの誰かにクラスの状態（い）を知られたくないと考え、誰も教室の中に入れないようにしている。

問五

——線部④「笑顔のあふれる教室が、気持ちが悪い」とありますが、「私」はなぜ「気持ちが悪い」と感じてしまったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 教室中に広がる笑い声がうるさくて、さらに体調が悪くなったから。

イ 教室は本来学習の場であり、笑顔より真面目な顔が似合う場所だから。

ウ 自分は体調が悪いのに、皆が楽しそうに笑っているのを無神経だと感じたから。

エ いじられて嫌な思いをしていたはずの文乃が、いつの間にか笑顔になっていたから。

オ 喜びや楽しさから生じる普通の笑顔とは違う笑顔が、教室全体に広がっていたから。

問六

——線部⑤「片眉を上げてかえちゃんが嘔き出す」とありますが、ここから「かえちゃん」のどのような気持ちを読み取ることができますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 体調が悪いのにいつまでも保健室に行かない「私」のふるまいを不審に思っている。

イ 教室が笑いに包まれている理由が分からない「私」のことをじれったく思っている。

ウ 皆が楽しそうにしているのに一緒に笑わない「私」の態度を不思議だと思っている。

エ 自分たちを批判しているように聞こえた「私」の言葉をいらだたく思っている。

オ 自分から嫌われるようなことを言う「私」の行動を理解できないと思っている。

問七

——線部⑥「ぐつと唇に歯を立てて、体ごとかえちゃんのほうに向けた」とありますが、ここから「私」のどのような気持ちを読み取ることが出来ますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 当たり前のことを理解できないクラスメイトたちにつかりし、教室を出ていこうと思っている。
- イ かえちゃんの場違いな発言をクラスメイトにしっかり聞かせるために、もう一度言わせようと思っている。
- ウ かえちゃんやクラスメイトの、文乃に対する言動はおかしいということを改めて伝えようと思っている。
- エ 自分のほうがまちがっていたということに気づき、かえちゃんにちゃんと謝罪しようと思っている。
- オ クラスメイトと異なり、自分の非をいつまでも認めないかえちゃんを問いつめようと思っている。

問八 本文中の

A

に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 邪魔^{じやま}だからどけよ
- イ お前、ムカつくなあ
- ウ お前、ほんとにノリ悪いな
- エ 言いたいことがあるなら早く言えよ
- オ もう大丈夫

問九 **B** に当てはまる漢字二字の言葉を考えて答えなさい。

問十 線部⑦「教室の空気は、一気に和久井くんのものになった」とありますが、これはどのようなことを言おうとしている表現だと考えられますか。それについて説明した次の文の（ ）に当てはまる内容を、十五字程度で考えて答えなさい。

和久井くんが、クラスメイトの関心を「私」や文乃からそらし、（ ）十五字程度（ ）ことに成功したということ。

【問題は、これで終わりです。】

【一】

問一	問一
⑤ 乗船	① ちようこう
⑥ 預ける	② きしゆ
⑦ 朗報	③ うちようてん
⑧ 標識	④ きざまれた

問二	問二
① 葉	① 葉
② 油	② 油
③ 空	③ 空
④ 輪	④ 輪
⑤ 水	⑤ 水

問三	問四
① イ	(1) (例)変更してもらう
② カ	(2) (例)見ている人も参加できる
③ オ	
④ ア	
⑤ ウ	

【二】

問一	問二
ア イ	飼育技術が確立されている
	問三
	ウ

問四	問五
人産 口業 がの 集中心 中心が し、商 、地工 方業 のへ 過と 疎移 化っ がた 進た んめ だ、 か都 ら市 。に	オ
	問六
	資源消費社会
	問七
	エ

【三】

問一	問一
a	a
エ	エ
b	b
ア	ア

問二	問二
ウ	ウ
問三	問三
イ	イ
問四	問四
ア	ア

問五	問五
オ	オ
問六	問六
エ	エ
問七	問七
ウ	ウ

問八	問八
オ	オ
問九	問九
中 ----- 間	中 ----- 間

二〇二五年度

和歌山信愛中学校

入学試験 B日程

国語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題冊子のすべてのページがそろっていることを確認して、解答を始めなさい。
 - 二 この問題冊子は1ページから24ページまであります。
 - 三 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
 - 四 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
- 解答用紙は、問題冊子の上を開いたまま裏返して置きなさい。
- 〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑧の――線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 屋外で遊ぶ。
- ② 鋼鉄で船を造る。
- ③ ロボットを操作する。
- ④ アイデアを練る。
- ⑤ 職場にふつきする。
- ⑥ 円のちよっけい。
- ⑦ 新聞のちようかんを読む。
- ⑧ じゅんじよよく並ぶ。

問二 次の①～⑤の慣用句が、() 内の意味になるように、の中に体の一部を表す漢字を一字入れなさい。

- ① が回る (非常にいそがしい)
- ② をかしげる (ふしぎに思う・疑問に思う)
- ③ を巻く (とてもおどろき、感心する)
- ④ を組む (協力しあう)
- ⑤ をそろえる (みんなが同じことを言う)

問三 信子さんは、クラスメイトとともにS公園のゴミ拾いボランティアに
ったメモをもとに、クラスメイトへの案内文を書いています。先生のメモと案内文の原稿まひょうを読んで、後の問いに答えなさい。

《 先生のメモ 》

- ゴミ拾いのボランティアなので、1人3枚ゴミ袋を持っていくこと。
 - 朝9:00にA駅に集合。夕方4:00にA駅で解散すること。
 - バスを使って移動する。9:15にA駅を出発するバスに乗って、「S公園前」バス停で降りる。乗車時間はだいたい25分です。
 - ボランティア活動の時間は10:00～12:00、昼休みを1時間とって、午後1:00～3:00。片付けをして帰ること。
 - 手が汚れるかもしれないので、軍手を忘れないこと。
 - お昼ごはんのお弁当は、9:45に「S公園前」バス停近くのお弁当屋さんで受け取ること。先生が注文してお金も払はらっています。
- 12:00になったらみんなで公園のベンチに座って食べるように。

《 案内文の原稿 》

来週のS公園ゴミ拾いボランティアについてお知らせします。

ゴミ拾いに必要なものは です。忘れずに持ってきてください。

当日は、9:00にA駅に集合です。

9:15にA駅発のバスに乗り、「S公園前」で降ります。

バスを降りたら、。

ゴミ拾いは午前10:00から午後3:00までです。

お昼の12:00から1:00までお昼ごはんの時間を取ります。

ゴミ拾いをするのは合計 時間です。

お昼ごはんは公園のベンチに座って食べましょう。

3:00になったら片付けをします。

帰りもバスを使って、S公園からA駅にもどります。

A駅で夕方4:00に解散の予定です。

(1) 《案内文の原稿》の中の I に当てはまる言葉を、《先生のメモ》をもとにして答えなさい。

(2) 《案内文の原稿》の中の II に当てはまる言葉を、《先生のメモ》をもとにして答えなさい。

(3) 《案内文の原稿》の中の III に当てはまる数字を答えなさい。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

系統的にもまったく異なり、もちろん見た目もまったく異なるヒトとゾウですが、両者の間には長いかわりの歴史があります。そして、現在でも私たちとゾウの関係は続いていると言えます。日本では「動物園にいる飼育動物」という存在に留まりますが、世界に目を向けると、より密接に生活に関わっている国もあります。ここではゾウとヒトがどのように共生してきたのか、またゾウはヒトにとってどのような存在と言えるのか、世界各国の歴史と文化からご紹介します。

インドのお祭りでは、ゾウは主役です。丁寧に体を洗い派手な衣装をまわせ、皮膚にカラフルなボディペイントを施します。青、緑、ピンク、黄、紫、白。ペイントで花や木、トラなど、ゾウ使いが思い思いの絵を描きます。絵が描かれる数時間の間、ゾウはじつと辛抱強く待っています。マニキュアをされることもあるそうです。

ゾウがお祭りの主役となるのは、**X**です。ヒンドウ教の神様に、ガネーシャという神様がいます。ガネーシャの体は人間のようですが、四本の腕を持ち、お腹がポンと出ていて、そして頭部はゾウという、奇妙でいて、どこか愛嬌のある姿をしています。日本の神話同様、インドの神話でも多くの神が、人知を超えた恐ろしい能力を持つことが多いのですが、ガネーシャは思いやりのある人間的な神のようです。ガネーシャの頭は生命の根源のシンボルとされ、また片方の折れた牙は犠牲を意味します。ガネーシャは除災厄除や財運向上で信仰を集めています。また、ブッダはかつて、一頭の白いゾウだったとされます。その後、母の子宮に入り、人間の姿となったのです。このように、インドにおいてゾウは信仰の対象とされているのです。

なぜゾウは信仰の対象になるのでしょうか。それは、**①**ゾウの存在がヒトに自然の姿を連想させるからではないでしょうか。飛行機から地上を見下ろすと流れる山々に人が暮らす住居がぼつぼつと肩を寄せ合って建っています。そこから見るとヒトの生活は大自然に反発しながらも結局それに飲まれ、ただただ身をまかせているように、心もとなく感じられます。ヒトは大自然を前にすると、なんとも無力な存在です。**A**、ヒトは集団の力で恐ろしいことを成し遂げてしまいます。海を埋め立て海岸の形を

変えてしまい、木々を倒し緑の山を岩肌むき出しの禿山に変えてしまいます。しかし結局、豪雨や台風などあらゆる天災が起こると自然にあらがうことはできません。

ヒトにとってゾウは自然そのものなのではないでしょうか。ヒトとゾウが一对一で対決すると、到底かないっこありません。その気になれば、ゾウにとってヒト一人殺めることなど、いとも簡単なことです。しかしヒトはそんなゾウを集団の力で捕らえ、檻の中で飼育してしまいます。ただし、それが一見成り立つのはヒトがゾウに対して驚くほどの深い愛情を持っているからです。そして、ゾウは強いだけでなく、ヒトの心を見抜く能力も持っているようです。② それらなしでは、ゾウはヒトにいつ牙を向けるかわかりません。もし牙を向けられてしまったら、ヒトはやはりなす術がないのです。そして、ヒトは己の力を超えるものを信仰します。B、「ヒトはゾウにはかなわない」、そう認めたからこそ、各国でゾウは人々の深い信仰の対象となっているのでしょうか。

東南アジアにおけるヒトとゾウの関係はどうでしょう。一般的に「アジアゾウは家畜だ」と言われます。ここで、家畜とはどういう動物を指すのでしょうか。③ 日本における家畜と言え、C、牛や豚や鶏が挙げられます。いずれも、人間に都合のいいように品種改良された動物です。そして日本に見られる牧場では家畜は、狭い囲いの中で、人間の厳しい管理下に置かれたまま一生を送ります。「ゾウが家畜だ」と言われる東南アジアではどうでしょうか。ミャンマーやスリランカでは、家畜であろう水牛の群れが、のんびりと道路を渡り、タイでも少し郊外に出ればニワトリが囲いのない庭を自由に走り回っており、ゾウもそのほとんどが野生ゾウを捕獲し訓練したものを飼っています。日本の家畜が暮らす環境とはまったく異なります。そして、私たち日本人が「アジアゾウは家畜だ」と聞いて、家畜としてのゾウが狭い囲いの中で人間の完全なる制御のもとに生きている様子を思い浮かべたら、それは④ 現実とはほど遠いものとなります。そもそもゾウは、ヒトの都合で品種改良されて生まれた動物ではありません。

ゾウとヒトの関係について、もっとも対等にお互いを尊重しあっているのは⑤ ミャンマーで働くゾウではないでしょうか。ミヤ

ンマーの林業では古くからゾウが欠かせない存在です。人が切り倒した丸太を、ゾウが運ぶのです。倒された木は、ゾウが鼻で持ち上げ、前足で蹴り飛ばし、川へと運ばれます。すると丸太は川に流され一カ所に流れ着きます。乾季になって川が干上がると、川は一時的に道路になり、そこをトラックが行き来して丸太を運び出すのです。この方法なら道路を建設する費用もかかりませんし、何より無駄な開発が必要ありません。

さて、林業に携わるゾウの一日は、ゾウ使いに呼ばれて始まります。それまで思い通りに森の中で夜を過ごしていたゾウたちは、自分の担当であるゾウ使いに名前を呼ばれ「もう、仕事の時間ね」と集まります。ゾウ使いたちは、時には、四時間もかけて、広い森から自分の相棒のゾウを探し出すそうです。

それからゾウは、ゾウ使いと一緒に川へ行き、体を洗ってもらいます。このときゾウ使いは愛情と感謝を込めて丁寧にゾウの体を洗うと同時に、自分のゾウの体調を確認します。健康だと確認されたら、持ち場へと移動していきます。

ゾウはどんなに険しい山道も物ともせず、ずんずん進みます。急な斜面だってお手の物です。後ろ足を曲げて膝をつき、前脚をふんばって下りていきます。鼻は地面について体重を支えたり、あるいは適当な木に巻きつけてバランスをとります。

持ち場では、ゾウ使いの掛け声に合わせて丸太を持ち上げ、蹴飛ばし、また引き寄せ、狙い通りの場所へと運びます。ときには数頭のゾウで息を合わせて数百キロもある丸太を運びます。「せーの」で丸太を同時に蹴飛ばしたり、持ち上げたりするのです。

ゾウとゾウ使いの息はぴったりです。それもそのはず、彼らの関係はゾウが子供のころから始まり、それは、一生涯つづくのです。若いゾウ使いは五歳程度のゾウと訓練を始め、最初は背中に乗り、さまざまな号令を教える訓練から始まります。このときから毎朝ゾウの体を洗い、優しく愛情を伝えてゾウの信頼を得るのです。そうして絆を深め、ゾウが十五歳程度になって力がついてくると、林業の仕事が与えられるのです。そして、ゾウが五十歳を過ぎ、体力に衰えが見られると林業の仕事は引退します。このときゾウ使いも六十歳を過ぎてちょうど定年を迎える年齢です。ただしその後もゾウ使いは自分のゾウの面倒を見続け、ゾウが一生を終えるのを見届けるそうです。彼らの関係は言ってみれば、林業としてゾウを使役しているというよりは、相棒として一緒

に働いているという関係だと言えるでしょう。

⑥ インドのお祭りでゾウが暴れ、死傷者が出たというニュースがありました。いつもはおとなしくゾウ使いの言うことをよく聞いているゾウでも、突然暴れだすこともあるのです。それはヨーロッパやアメリカ、そして日本など、動物園でゾウを飼育している国でもしばしば問題になることです。ゾウが暴れて飼育担当者にケガをさせてしまったり、あるいは悲しいことに担当者が亡くなってしまうという事故が世界で数多く発生しています。アメリカでは、「キレルゾウは過去に人に絡んだトラウマを抱えている」という調査結果が発表されています。幼いころに野生で捕らえられたり、目の前で密猟者に母が殺されるのを見た経験があるゾウがキレて、飼育下で死亡事故を起こす事例が多いというものです。また、サーカスから動物園に引き取られたり、動物園間で何度も移動させられた経験を持つゾウは、ストレス行動が増えて繁殖もしにくくなり、いわゆるうつ状態に陥りやすくなるそうです。その結果、やはり事故を起こしてしまうこともあるそうです。いずれの場合も、記憶力がよく、また社会性が高いというゾウの特徴から引き起こされるものだと考えられます。ゾウが暴れるのには、必ず理由があるのです。また、ゾウの遺伝子型から、神経症の傾向なども把握できるという京都大学のチームによる研究報告もあり、今後、事前にそのゾウの気質なども考慮に入れて、飼育態勢の強化やゾウどうしの相性の良し悪しなどの判断に使えるようになるかもしれません。

ゾウは繊細な動物ですから、ヒトと同様、精神面のケアが不可欠な動物と言えるでしょう。動物園でゾウを飼育することは、絶滅危惧種である彼らの保全の観点からとても重要ですが、最適な飼育環境はどのようなものかについては、今後も多方面から議論されるべき課題とされています。そしてそれは、ゾウだけでなく、あらゆる動物についても言えることかもしれません。

これまで、ヒトとゾウとの関係について、さまざまな事例を紹介してきました。それらをまとめて、ここに⑦ **私の個人的な見解**を述べたいと思います。私利私欲のために振る舞う人間が、それを集団で行ってしまうと、地球環境はどんどん破滅していき、最後には人間が暮らすことのできない世界になってしまうでしょう。いま、人間は、自らが作り出した技術によって、自らも制御できないほどの大きな社会を作り上げてしまいました。二〇二〇年に引き起こされた新型コロナウイルスの世界的パンデミックや、

年々増加して世界中で人々を苦しめているうつ病しやう症例数も、その結果引き起こされたものといえます。現在、人類は、自らが生み出したものによって、自らの存在あやが危あやぶまれている状態と言えます。既存ききんの生態系を保護する方法を考えて、それに従って行動し、また素直すなおに心地こちよいと感じられる環境を守ることは、同時に、自らが背負っている重荷を軽減させることを意味すると言えるかもしれません。そして、それがうまくいっているか、そのひとつのわかりやすい指標として、ゾウを見るのはどうでしょうか。ゾウが健全に暮らせる地球は、人間も健全に暮らせる地球なのですから。

(入江いりえ 尚子なおこ『ゾウが教えてくれたこと』より)

問一 本文中の A く C に当てはまる言葉として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

(記号は一度ずつしか使えません。)

ア たとえば イ しかし ウ つまり

問二 本文中の X に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ゾウはさまざまな動物の中でも特に人懐ひとなつっこい性格をもっているから
イ ゾウは数ある動物の中でも人間びな離はなれした奇妙な姿をしているから

ウ ゾウは人間の日常生活の中に溶け込んでおり親しみやすい存在だから
エ ゾウは元来きれいな動物で自分の身体を派手に飾られるのを好むから
オ ゾウは人知を超えた存在として人々の信仰の対象になっているから

問三 ——— 線部① 「ゾウの存在がヒトに自然の姿を連想させる」とありますが、「ヒト」との関係において、「ゾウ」と「自然」

は、どういう点で同じなのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一見ヒトが優位に立っているように見えるが、一度牙をむくとヒトが絶対になわなないという点。
- イ ヒトにとって身近で親しみやすい存在であり、お祭りなどの儀式を通して人々の信仰を集めている点。
- ウ ヒトの集団の力によって完全に支配されていて、その力の導く方向にのみ生きることが許されている点。
- エ これまでの歴史を通してヒトが常にその支配から脱しようと反発し、戦ってきた相手である点。
- オ 大きな存在でヒトを優しく包んでくれる存在であり、生きる厳しさから守ってくれているという点。

問四 ——— 線部② 「それらなしでは、ゾウはヒトにいつ牙を向けるかわかりません」とありますが、「それら」とは何を指しま

すか。本文中の言葉を使って、二十字以内で二点答えなさい。

問五 ——— 線部③ 「日本における家畜」とありますが、筆者は日本における「家畜」をどのような動物だと考えていますか。
本文中の言葉を使って五十文字以内で説明しなさい。

問六 ——— 線部④ 「現実」とありますが、東南アジアにおける家畜たちの「現実」について具体的に説明されている一文を、本文中のこれより前の部分からぬき出し、最初の六字を答えなさい。

問七 ——— 線部⑤ 「ミャンマーで働くゾウ」について、後の問いに答えなさい。

(1) 「ミャンマーで働くゾウ」についての説明として、**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ゾウとゾウ使用の関係は、ゾウが子供のころから始まり、ゾウ使用はゾウに優しく愛情を伝えながら信頼関係を育むことで、お互いの絆を深めていく。

イ ミャンマーの林業において、ゾウは欠かせない存在であり、大きな体と強い力をもつゾウたちが協力して、人が運べない巨大な丸太を運んでいる。

ウ ミャンマーのゾウたちは、仕事の時以外はそれぞれの思い通りに森の中で過ごしており、ゾウ使いたちは、それを呼び集めることから日々の仕事を始める。

エ ミャンマーのゾウは、もともと人間を信頼しやすい性質を持っており、非常に扱あつかいやすく、ゾウ使いとゾウたちの関

係は一生涯が続くことになる。

オ ゾウが年をとって、体力に衰えが見られるころに、ゾウは山の力仕事を引退するが、その後もゾウ使いはゾウの面倒を見続け、ゾウの生涯を見届ける。

(2) 「ミャンマーで働くゾウ」とゾウ使いはどのような関係だと筆者は述べていますか。本文中から十八字でぬき出して答えなさい。

問八

——線部⑥「インドのお祭りでゾウが暴れ、死傷者が出たというニュースがありました」とありますが、こういったゾウに関する「ニュース」から筆者が考えたことはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いつもはゾウ使いの言うことをよく聞いているゾウでも、突然暴れだすことはよくあることであり、人への憎しみを心の奥底に抱えた生き物であるゾウは、根本的に人との共存は難しいということ。

イ ゾウは記憶力もよく、社会性が非常に高いことから、精神的な病気になりやすいという欠点を抱えているので、ゾウたちを人工的な環境で飼育することを全面的にやめなければならないということ。

ウ ゾウは非常に繊細な動物なので、精神面でのケアが必要であり、これを怠ると大事故につながるから、ゾウにとっての最適な飼育環境とはどういうものかを常に考えていかねばならないということ。

エ 過去に精神的なトラウマを抱えていたり、住環境を何度もかえられたゾウほど人間に対して暴力的な行動を取ることが多く、ゾウの過去を知ること、ゾウの暴力性を抑えることができるということ。

オ ゾウの遺伝子型から、ゾウの性格やゾウ同士の相性まで分析できるようになった現在では、ゾウを望ましい環境で飼育することは簡単であり、今後、更なる飼育環境の向上が実現していくであろうということ。

問九 ———線部⑦「私の個人的見解を述べたい」とありますが、ここで述べられている筆者の「個人的見解」の説明として最も
適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 私利私欲のために振る舞う人間が、ゾウの住む環境を破滅させ、人間が暮らすことのできない世界を作り出しているので、ゾウの幸福を実現するには人間を世界から除くことが必要だ。

イ ゾウが心地よく生きられる世界では人間も心地よく生きることができるので、ゾウが生きやすい環境を守るとは人間が健全に生きやすい世界を作ることにつながっていく。

ウ 人間が作り出した技術によって生み出された巨大な社会では、人間もゾウも心地よく生きることが難しくなっており、今後の世界に明るい希望を持つことは不可能である。

エ 様々な技術の発達によって、人間にとって住みやすい世界を作るとは以前よりも簡単になっており、ゾウにとっての住みやすい世界をつくることも人の心が次第で簡単に実現することができる。

オ 私利私欲のために地球の環境をほしのままにしてきた人間が、神様としてのゾウに祈りをささげ、ゾウと人間が手をとって共に歩むことで住みやすい世界を作ることができる。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

杏美は、香奈枝が「はじゅちゃん、はじゅちゃん」と言いながら自分の後ろをついてきた日々を、はっきり覚えている。舌足らずの香奈枝が「あずちゃん」と呼ぶと、それは「はじゅちゃん」と聞こえたのだ。

保育園で、杏美は香奈枝と「仲良し二人組」だった。

思えば、家が近くて母親どうしが顔見知りだったというだけの理由だったが、赤ちゃんの頃から一緒にいて、周囲からも先生からも「仲良し二人組」として扱われると、ちいさな園の中で、その関係はほぼ固定化された。

四歳になっても、香奈枝は「はじゅちゃん」と、舌足らずに呼んだ。

そのころ杏美は保育園の同じ学年の子たちの中で、一番背が高かった。自分でもよく覚えている。リトミックでも体操でも、何をやってもいちばん上手で、みんなができないのが不思議なくらいだった。お絵描きの時間は大得意だった。他の子たちがどうかして人間を描こうとしても全部お化けみたいになっちゃう時に、杏美は前髪も眉毛も首も、丁寧に描いた。上手ねえ、とおとなに褒められるたび、^①自分は特別なんだと思った。

ある時香奈枝が、大きくまるを描いて、その中にぐりぐりと目玉らしきものをぬりこんでいた。できあがったものをみんなに向けて言った。

——これ、はじゅちゃん。

にこにこしている香奈枝を見て、カッとなった。

——わたし、そんな顔じゃないよ！

自分でもびつくりするくらい、険しい声が出た。その声に、目の前の香奈枝が固まった。

香奈枝は無言で消しゴムを探し、ごしごしと絵を消した。消して消して、その指先が真っ赤になるくらいに力を込めて消してい

るうち、紙が破けてしまったから、さすがに申し訳なくて、杏美は焦った。けれど、優しい言葉を香奈枝にかけることが、どうしてもできなかった。

あの時のことを、香奈枝は忘れてしまったのだろうか。杏美ははっきり覚えていて。あんなに強く反応してしまったのは、同じころ母親の多美子が香奈枝の写真を見ていて、

——この子は将来、美人になるわ。

と言ったからかもしれない。

ため息のこもったようなその声には、深い実感があつた。

——でも、かなちゃんは何にもできないんだよ。

なぜか杏美はそんなことを言った。

——いいのよ。あれだけ可愛いんだから。

多美子はさらっとそう言ってから、

——あなたは不器量だから、しっかり勉強して、みんなの役に立つ仕事に就かないとね。

と、杏美に言った。

それからしばらくして香奈枝が保育園を退園した。

わたしが絵のことで怒ったから、香奈枝を傷つけてしまったのだろうか、子どもながらにはらはらと後悔した。そのことを多美子に言ったら怒られそうな気がして、杏美はずっと黙っていた。

実際は、香奈枝の母親が仕事を辞めたために、幼稚園に転園したというだけのことだったが、幼い杏美にそんな事情は分からなかった。だから、小学校の入学式で香奈枝が満開の笑顔で近づいてきてくれた時、^②世界が一気に輝いたように感じた。ふ

たりが再び、「二人組」になった。当たり前のことだけど、香奈枝はもう「はじゅちゃん」ではなく「あずちゃん」と、呼べるようになった。うになっていた。

秋になり、学芸会で『白雪姫』を上演すると発表された。

配役が発表されると、

「あずちゃん、何の役やる？」

香奈枝に訊かれた。杏美は、ほんの少しだけ白雪姫役に惹かれていたけれど、なぜか、

「ナレーター」

と言った。

「かなちゃんは？」

「あたし白雪姫に立候補する」

きっぱり言う香奈枝の目はみずみずしい。野心に満ちていた。

すでに杏美と香奈枝の力関係は変わりつつあった。香奈枝はクラスで一番背が低く、発想も幼く、絵や字もへたくそで、計算も遅い。何もかも杏美に負けているのに、一向に気にしていないようだ。気が強くわがままで、そのわがままを通す力を持ち始めていた。

③「白雪姫なんて、セリフ全然ないじゃん」

香奈枝のまっすぐな物言いが眩しすぎて、杏美はそんなふうと言った。白雪姫役は五人。十の台詞を、五人がふたつずつ担当するのだ。ナレーターには三つ台詞がある。それ以上、台詞のある役はない。皆が平等に目立てるように、先生たちが台本を作ったのだろう。動物だの妖精だの、いろんなのが出てきて、一つ、二つ、皆が喋る。

「だって、ドレス着れるの、白雪姫だけでしょ。それに」

と、香奈枝が思いがけないことを言った。

「あずちゃんも一緒に白雪姫やれば、一緒に練習できるよ」

「え……？」

杏美は困った顔を作った。

「やろうよ、やろうよ」

「でも……どうしようかな」

④ 甘ったるい食べ物を用意せず舌にのせられたような気がした。

白雪姫役に手を挙げる時、どきどきした。立候補者はぴったり五名。全員仲良く白雪姫になることができて、安堵の息がもれた。

その日の夕方、一緒に通っていた公文教室にお迎えにきた多美子と香奈枝ママに、二人は口々に白雪姫役をやることを報告した。

香奈枝ママは「やったね」と言い、香奈枝の手のひらと自分の手のひらをパチンと合わせた。一方、多美子は、

「やあだ、五人の中で杏美だけがノッポじゃないの、入れ替わった時に変な感じになっちゃうじゃない」

とぶつぶつ言った。香奈枝ママは、そんな多美子に苦笑いをしながら、

「あずちゃんと一緒に白雪姫できるなんて、カナ、良かったね。おんなじドレスのお衣裳を着て、写真をいっぱい撮りたいね」

と杏美に声をかけた。

「白雪姫のドレス、親が作るのかしらね……香奈枝ちゃんには似合うでしょうけど、うちはどうかしら……」

まだぶつぶつ言っている多美子だったが、いつもよりはその目が優しく細められている気がした。

——おんなじドレスのお衣裳を着て、写真をいっぱい撮りたいね。

香奈枝ママの言葉が、ポップコーンみたいに軽やかに、耳元で弾け続けていた。

その日、公文教室からマンションの近くの別れ道まで、杏美は香奈枝とつないだ手をぶんぶん振って、勇ましく歩いた。

しかし翌日の朝の会で先生が、白雪姫の役を決め直すと言ったのだった。なんでも昨日休んでいた飯田麻耶が、親を通じて電話で白雪姫役に立候補したいと伝えたらしい。

皆の前で、六人でじゃんけんをして、香奈枝が負けた。

大泣きするかと思った香奈枝は無表情で引き下がった。先生が何か言葉をかけていたけれど、香奈枝は黙っていた。

休み時間に杏美が香奈枝に話しかけるとふいっと横を向かれた。香奈枝は、杏美だけではなく、他の誰^{だれ}ともしゃべらなかつた。

杏美は、白雪姫役を奪^{うば}った飯田麻耶が平気な顔で授業を受けているのを、信じられないような思いで見っていた。香奈枝の不機嫌^{げん}は、何かじわじわとした首輪^{くわ}になって、自分に巻きついてくるようだった。

だから、給食の準備時間に、

「あずちゃん……」

と香奈枝に声をかけられたとき、^⑤ 杏美はようやくこの首輪^{くわ}を外せると思った。

「あずちゃんは本当は白雪姫、演^やりたくなかつたんだよね？」

意を決した顔の香奈枝の目はきれいだった。

「あずちゃん、本当は、ナレーター演^やりたかつたんでしょ。だったら……」

「わたし、やめてもいいよ」

皆まで言わせず、杏美は言った。

「え、本当？」

香奈枝の顔がぱあつと光る。

「先生に言いに行こう」

杏美は香奈枝の手を握^{にぎ}った。香奈枝の手を、自分から握るのは久しぶりだった。香奈枝が、

「よかった」

と言った。うん、よかった。わたしはもともと白雪姫なんて演りたくなかったんだから。台詞が多いナレーターを演りたかったんだから。

それなのに、先生に許可を得て、正式に白雪姫から降りた時、取り返しのつかないことをしてしまったような気がした。

ちゃんと頼まれていないし、ちゃんとお礼も言われていない。急にそんな考えが湧いて、香奈枝を責める気持ちがむくむくと湧き上がった。ちゃんと頼ませないように、ありがとうを言わせないように、そうしたのは自分だったのに、どういうわけか、^⑥酷く不当なことをされた気がした。

「あずちゃんが、うちのカナに、白雪姫役をゆずってくれたそう。本当にありがとうございます。あずちゃんは、優しい子ね」
数日後の公文の帰り道、香奈枝ママが多美子に礼を言うのを聞いていた。

そのことを知らなかった多美子は、一瞬黙ってから、ぱかっと箱を開くような笑顔になって、

「いいのいいの。うちのなんて、白雪姫って柄じゃないし、香奈枝ちゃんが演ったほうがずっと**様になるわよ**」
と言った。

それなのに、家に帰ってから、

「杏美が白雪姫役を降りたこと、知らなかったよ。よく我慢したね」

と、杏美に言った。

我慢？

ノッポの杏美には似合わないって、お母さん、何度も言っていたくせに。

「我慢なんかしてないよ！ わたし、白雪姫なんて、本当はやりたくなかったんだから」

多美子は本当は自分に白雪姫をやってもらいたかったのだ。そう思ったら、^⑦「我慢」のひと言は、ヤスリみたいに耳たぶを擦

つた。

「五人でやる役なんて、ばっかみたい」

いくらひらひらしたドレスを着たところで、台詞二つの白雪姫より、三つ喋れるナレーターのほうが、賢い選択なんだ。たとえナレーターは舞台には立たず、その下でマイクを使ってしゃべる役だったとしても。

(朝比奈 あすか 『君たちは今が世界』より)

問一 線部 a 「野心」、b 「様になる」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「野心」

- ア 自分だけが得したいと思う気持ち
- イ 他の人をうらやましく思う気持ち
- ウ 今のままの自分でいようと思う気持ち
- エ なんとんでも成功してやろうと思う気持ち

b 「様になる」

- ア その場にふさわしい
- イ 上手にできる
- ウ 注目を集める
- エ 準備が整っている

問二 ――線部①「自分は特別なんだと思った」とありますが、このときの杏美の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 周囲のおとなからひいきされていることが嬉しくて、得意な気分になっている。
- イ 他の子たちができないことを自分ができることを実感し、優越感にひたっている。
- ウ 自分の描いた絵が褒められたことで、自分には絵の才能があるのだと思い込んでいる。
- エ 幼いなりに続けてきた努力を認められたことによって、誇らしい気持ちになっている。
- オ 自分は特別だと自分に言い聞かせることによって、不安を拭い去ろうとしている。

問三 ――線部②「世界が一気に輝いたように感じた」とありますが、このときの杏美の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の似顔絵をへたくそに描いた香奈枝のことを、やっと許そうと思えるようになった。
- イ 香奈枝の見せた笑顔があまりにもかわいくて、あっという間に心を奪われてしまった。
- ウ 絵のことで香奈枝を傷つけていたかもしれないという不安が、瞬時に解消された。
- エ これからライバルとして戦っていくであろう香奈枝に対する対抗心が、急に燃え始めた。
- オ 香奈枝が自分を特別扱いしてくれたことが嬉しくて、だんだんと浮かれた気分になった。

問四

——線部③「白雪姫なんて、セリフ全然ないじゃん」とありますが、このときの杏美の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の意見を押し通そうとする香奈枝の自己主張の強さに腹が立ち、わざと意地悪なことを言ってしまうている。
- イ セリフの少ない白雪姫役は、目立ちたがり屋の香奈枝にはふさわしくないと考え、あきらめさせようとしている。
- ウ 白雪姫役に立候補することをためらいなく宣言する香奈枝をうらやましく思いつつ、反発している。
- エ ナレーター役は白雪姫役よりもセリフが多く、魅力的な役であるということをアピールしようとしている。
- オ 白雪姫役を悪く言うことによって、白雪姫役をやりたがっている香奈枝の気が変わるように仕向けている。

問五

——線部④「甘ったるい食べ物を不意打ちで舌にのせられたような気がした」とありますが、このときの杏美の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分には似合わない白雪姫役を香奈枝の思いつきで急に押し付けられ、うんざりしている。
- イ 主役である白雪姫役が自分に務まるのかどうか自信がないため、不安な気持ちになっている。
- ウ ナレーター役をやりたいという自分の気持ちを見無視されたようで、悲しい気持ちになっている。
- エ 密かに憧れていた白雪姫役と一緒にやろうと提案されたことが予想外だが、その気になりつつある。
- オ 香奈枝の誘い方に自分を見下しているような気配を感じ、素直に受け入れられずにいる。

問六

——線部⑤「杏美はようやくこの首輪を外せると思った」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 白雪姫役からはずれて不機嫌になった香奈枝のせいで居心地の悪さを感じていたが、香奈枝から話しかけられた際に、その内容を察し、この状況から解放されるだろうと期待したということ。

イ 休んでいた飯田が香奈枝の白雪姫役を奪ったことが腹立たしく、許せずにはいたが、香奈枝が落ち着いた様子で声を掛けてきたので、自分の中にある怒りも少しづつ減るだろうと感じたということ。

ウ 白雪姫役を香奈枝と一緒にできなくなってしまうため、心細い気持ちでいっぱいだったが、香奈枝に相談に乗ってもらえるならば、そのプレッシャーからも逃れられるだろうと安心したということ。

エ 香奈枝の白雪姫役へのこだわりが自分にとっては重荷であったが、香奈枝が歩み寄ってくれたことで、ナレーター役になりたかったという自分の正直な気持ちを打ち明けられると思ったということ。

オ 自分のわがままばかりを押し付ける香奈枝の態度にうんざりしていたが、話しかけてきた香奈枝のかしこまった様子を見て、面倒なことに巻き込まれる心配はなくなるだろうと悟ったということ。

問七

——線部⑥「酷く不当なこと」とありますが、杏美はどのようなことを「酷く不当なこと」だと感じているのですか。本文中の言葉を使って六十字以内で説明しなさい。

問八 ——— 線部⑦『我慢』のひと言は、ヤスリみたいに耳たぶを擦った」とありますが、このときの杏美の気持ちについて、

六人グループで意見を述べ合いました。内容として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 普段は杏美に対して厳しい言葉を投げかける多美子だけど、このときは珍しく杏美を褒めてくれたね。思いがけなく母親から優しい言葉をかけてもらったことで、杏美は白雪姫役をゆずった自分に誇りを持てたと思う。

イ 多美子は何度も「白雪姫役は杏美には似合わない」って言ってたじゃない？ でも、本当は杏美が白雪姫役に選ばれたことが嬉しかったんだよね。だから多美子が「我慢」という言葉を使ったことに矛盾を感じて腹が立ったんだと思うな。

ウ 自分が白雪姫役を香奈枝にゆずったことで、香奈枝ママにも感謝されたし、多美子からも褒めてもらえたよね。だから杏美は、これからは「我慢」することで人間関係を円満にしていこうと心に誓ったんだと思うよ。

エ 杏美は、娘に白雪姫役を演じてほしかったという多美子の本心を知ってしまったよね。自分が白雪姫役をゆずったことによって、もう母親の望む娘ではいられなくなってしまったという絶望感でいっぱいになっているんじゃないかな。

オ 杏美は白雪姫役をばかばかしいと思っていたのに、「我慢したね」という言葉で、多美子に誤解されてしまったことがわかるよね。だから、どうにかしてその誤解を解こうと必死になっているんだと思うな。

カ 杏美は白雪姫役は自分には似合わないと思っていたし、ゆずったことを我慢しているつもりもなかったよね。だけど、多美子の「我慢したね」という言葉で、本当は白雪姫役をやりたかったんだという自分の本心を痛感させられたんだと思う。

【問題はこれで終わりです。】

【一】

問一	
⑤ 復帰	① おくがい
⑥ 直径	② こうてつ
⑦ 朝刊	③ そうさ
⑧ 順序	④ ねる

問二

① 目
② 首
③ 舌
④ 手
⑤ 口

(1) ゴミ袋3枚と軍手

問三 (2) バス停近くのお弁当屋さんでお弁当を受け取ります

(3) 4

【二】

問一	問二
A イ	オ
B ウ	問三
C ア	ア

問四

・	・
ゾ	ヒ
ウ	ト
が	が
持	ゾ
っ	ウ
て	に
い	対
る	し
ヒ	て
ト	持
の	っ
心	て
を	い
見	る
抜	深
く	い
能	愛
力	情
。	。

問五

る	困	人
動	い	間
物	の	に
。	中	都
。	で	合
。	、	の
。	人	い
。	間	い
。	に	よ
。	管	う
。	理	に
。	さ	品
。	れ	種
。	な	改
。	が	良
。	ら	さ
。	一	れ
。	生	、
。	を	狭
。	送	い

問六

ミ
ヤ
ン
マ
ー
や

(1) エ

問七

(2)	
相	棒
と	し
て	一
緒	に
に	働
い	い
て	い
る	と
と	い
う	関
係	係

問八 ウ

問九 イ

問一
a
エ
b
ア

問二
イ

問三
ウ

問四
ウ

問五
エ

問六
ア

に	ち	香
対	ゃ	奈
す	ん	枝
る	と	が
お	頼	白
礼	み	雪
も	も	姫
言	せ	役
わ	ず	を
な	、	ゆ
か	ゆ	ず
っ	ず	っ
た	っ	て
こ	て	ほ
と	も	し
。	ら	い
	っ	と
	た	杏
	こ	美
	と	に

問八
イ
カ

二〇二五年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程 (午後)

作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題用紙、解答用紙、下書き用紙がそろって
いることを確認して、解答を始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
解答用紙と下書き用紙は、問題冊子の上に開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章を読んで、あなたの感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

本を読んで情報を収集するだけなら、情報量の多さはネットにはかきません。

ネットからはレストランの評価や、アクセス数、おいしいと思った人の数など、投票結果のような評価も手に入ります。レストランやホテルを選ぶ時だけではなく、本を選ぶ時も星の数で表されている評価やレビューを目安にする人が多いのではないのでしょうか。

でも、他人の評価、多数決で選ばれた結果をそのまま信じることはやめましょう。

世の中に無価値なものなどないのです。

たとえ面白くないと思っても、その本からでも学ぶことはあります。どこが面白くないのか、どうして面白くないのか、考えてみてください。

また、みんなが名作だと言っているものは本当に面白いのか、面白く感じられないところはどこかなど、考えることはたくさんあります。アンテナをいっぱい張り巡らせて、いろいろな角度から読んでみてください。

また、友人たちと本やアニメ、映画などの話をしていて、みんなが「面白かった」と言っている作品が、あなたにはあまり面白くなかったとします。そんな時、面白いと思うことが普通だと思わないでほしいのです。

このようなそれぞれの人が受ける感覚のどちらが正しいかは、多数決では決められないのです。

自分の感じた気持ちにふたをして、みんなに合わせてしまうのは、自分に嘘をつくことになります。

そういう時は、どうしてそれが自分には面白いと思えないのか、そこを深く考えてみてください。

みんなと違う意見を言うことは勇気がいるかもしれませんが、その作品をけなすのではなく「主人公のあの行動はちよつとおかしいと思った。こうしたほうがもっと面白くなったんじゃないかな」など、自分の感じたことを伝えてみてはいかがでしょう。

あなたの考え方を聞いて、友人もいろいろな気持ちを抱くでしょうし、もっと別の意見が出るかもしれません。

自分とは違う意見や感想をもつ人もいることを知ったり、意見を聞いて納得し、見方を変えるきっかけになったりすることは、とてもいい経験になります。

二〇二五年度

和歌山信愛中学校

入学試験 C日程

作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 開始のチャイムが鳴ったら、問題用紙、解答用紙、下書き用紙がそろって
いることを確認して、解答を始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、解答をやめなさい。
解答用紙と下書き用紙は、問題冊子の上に開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

問 次の文章は、元サッカー女子日本代表で、二〇一一年のFIFA女子ワールドカップ優勝をはじめとする活躍で、日本女子サッカー界をけん引し続けた澤穂希さんの文章です。これを読んで、あなたの感じたことや考えたことを六百字以内で述べなさい。

私は二〇〇四年の大怪我から、三つのことを学びました。

一つは、「普通」であることのありがたみです。怪我をするまでは、歩いて走って、ボールを蹴ってという日常が、失われることを考えもしませんでした。でも、怪我などの理由によって、ある日突然、そんな「普通」のことができなくなることであったらと身をもって知ると、これまで以上に一日一日をしっかりと生きなくちゃ、と思えるようになったんです。

二つめは、どんなにつらい現実も、やがて自分の糧になるということです。つらいことに直面したら、その時は泣いていいと思います。ひとしきり泣いたら、次はもうそこから上がるだけ。一度どん底に落ちて、そこから這い上がる経験をしたら、人間、絶対にひと皮むけて大きくなれます。

三つめは、つらい境遇にある時、それでも夢をかなえられるかどうかは、結局自分がやるかやらないかに懸かっているということです。夢のゴール地点まで、誰かが代わりに走ってくれるわけではありません。頑張るのも自分、あきらめるのも自分。夢に届くか届かないかは、自分次第なんです。

三つのことから感じるのは、自分が「夢」へ向かっているのなら、何かが立ちふさがっていても、それも貴重な人生経験になるということです。

「こんなつもりじゃなかった」「夢なんか見るんじゃないかった」と、その時は思うかもしれませんが、でも、「なりたい自分」にいつか到達したいと望むならば、たまには遠回りしてもいいし、遠回りしなければならぬことも出てくると思います。その間に見えるいつもと違う景色も、実は貴重な糧になるものなんです。

（澤穂希 『夢をかなえる思いを實現させるための64のアプローチ』）